

ラオス通信 * 2008年6月号 *

ラオス通信第13号 (毎月1日発行予定) ・ 発行者: 北川亜友美
(青年海外協力隊平成19年度1次隊・村落開発普及員・ラオス国アッタプー県教育局配属)

雨季の始まり

ラオスからサバイディー (こんにちは)。
最近、雨が多くなってきました。どうやら雨季に入ったようです。雨が降ると、大地や木々が瞬く間にきれいな新緑になります。先日お隣のチャンパサック県にある世界遺産・ワットプーに行ってきました。生憎の雨でしたが、新緑がとてもきれいでした。



公開授業、その後・・・

3月から開始した巡回先小学校5校を対象にした公開授業。その効果が徐々に見えてきました!

まずは、就学前準備コース。公開授業を境に、とある小学校の先生の教室の雰囲気が「がらっ」と変わったのです(下写真参照)。この先生は、いつ教室をのぞいても、椅子に座ったきりで、授業の最初は何かしら授業めいたことをしますが、途中からはずっと窓の外を眺め続けて、授業が終わる…というパターンばかりでした。それが公開授業後は、まずは教室のレイアウトを公開授業で見た学校のスタイルに変え、誇張ではなく授業もいつもとは打って変わって熱心に教えていました。他の先生が生き生きと授業する姿を見て、この先生のマンネリ化していた気持ちが刺激されたのかもしれません。



←就学前準備コース・公開授業

・先生は常に笑顔を決やさないで、教室の雰囲気はいつも和やか。生徒が飽きないよう、いつも授業内容やリズムを工夫しています。



公開授業参加前



公開授業参加後

次は英語。英語公開授業は5月半ばまでに3回実施したのですが、3回目の公開授業担当の先生が、2回目の公開授業担当の先生の教授スタイルを取り入れていたのです。これまで、この先生は、授業中に生徒の間に入っていて、質問を投げかけることはしていませんでした。また、1回目の公開授業後の意見交換会で私が紹介した英語ゲームも授業の最後に取り入れていました。



↑2回目英語公開授業

机間巡回をしながら、生徒を指名し、質問を投げかけていきます。教室内に程よい緊張感と良いリズムが生まれます



↑3回目英語公開授業

前回の公開授業を参考に、新しい教授スタイルを取り入れる先生。

2つの事例とも、どの教授スタイルがベストということではありません。ただ、他の先生の授業を見て、一時でも自分のスタイルを見つめ直し、「ちょっと工夫してみよう」という姿勢が見えたこと、教員間や学校間で情報交換が出来たことが大きな変化だと思います。これは、県・郡教育アドバイザーも同意見で、来学期も継続して公開授業を続けていくことになりました。

サバイディー (こんにちは)、赤ちゃん☆



同僚と旦那さんとアミちゃん

3月に同僚の女性職員が元気な女の赤ちゃんを出産しました。赤ちゃんの名前は何と私のニックネームと同じ「アミ」ちゃん。以前、「亜美」の意味を彼女に尋ねられ、

「亜」は「アジア」、「美」は「美しい」と説明したのですが、彼女はその意味がとても気に入ったそうです。

そして先月、アミちゃんの健やかな成長を祈願するパーシーの儀式(右写真)が行われました。沢山の人が愛されて、アミちゃんはきっといい子に育つことでしょう。私もこれからアミちゃんの成長がとてもとても楽しみです。



↑おばあちゃんに抱かれたアミちゃん。この日は沢山の人がアミちゃんの健やかな成長を願いながら、手首に糸をまいてくれました

***** 編集後記「あと1年・・・!」 *****

先日、配属先と JICA の間で私の後任隊員について話し合いがありました。来年の6月半ばにはラオスを去る私。ここにいられるのもあと1年。周囲の人達のおかげで、とても楽しく過ごさせてもらっていて、1年後にはここを去るとは想像し難いですが、確かな区切りがある協力隊活動。ここで過ごせる1日1日の貴重さをかみ締めながら、あと1年、精一杯頑張っていこうと思います。それでは、ポッカンマーイ (また会いましょう)